

施策評価表

京 都 府 南 丹 市
作成日：平成22年7月13日

平成22年度(平成21年度実施)

評価施策名	3 生涯にわたって学び、活かす機会をつくる	施策CD	13	施策主管部	教育委員会	部長名	東野 裕和
政策名	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る			施策関係部	企画管理部		

【施策の概要】

1 南丹市が考える理想(目的)

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
生涯学習活動事業数	事業	20	22	29	23	24	25
スポーツ・レクリエーション施設の利用者数	人	227,789	228,000	208,938	228,500	229,000	230,000
社会教育施設の利活用者数	人	89,505	89,600	91,600	89,800	89,900	90,000
文化サークル数	団体	159	159	159	159	159	160

- 市民一人ひとりが心豊かに充実した生活を送れる生涯学習社会の実現。
- そのためには、市民自らが学び、自己を高め、さらに学んだことを社会で生かしていく環境(生涯学習社会)の実現をめざす。
- 都市部の生涯学習社会の実現と違う地域コミュニティ活動の持続した社会の実現

1 南丹市の現状(課題)

- 市民一人ひとりが進んで学習に取り組み、自ら学び高めている割合が低い。
- 積極的に運動・スポーツに自ら取り組んでいる割合が低い。
- 文化・芸術に普段の生活の中で触れる機会が少ない。
- 地域が広域すぎるため、下駄履きのままで気軽に参加できない。

(現状)

- ・生涯学習活動事業数 23 事業(平成20年) 同参加者数6,211人
- ・文化サークル数 157団体(平成20年)
- ・総合型地域スポーツクラブ 2クラブ(平成20年)
- ・スポーツ、レクリエーション施設の利用者数 208,779人(平成20年)

2 対策をしなければどうなるのか

- 社会生活や職業等に対して、十分な対応をすることができなくなる。
- 運動・スポーツを続けない場合、健康と体力を維持することができない。
- 病気や怪我を負うことになり、日常生活が困難になる。
- 文化・芸術の振興が図られないと、精神的な充足と心豊かな暮らしが失われる。

3 それは何故おきたのか

- 市民が自ら進んで学習に取り組めていない。
- 自主的に学べる体制が整っていない。
- 運動やスポーツを身近に、かつ気軽に行える環境がない。
- 文化・芸術については、触れる機会がなかったり、時間的な余裕がない。

4 それらを解決するために何をするのか

- ①市民が自発的に生涯学習活動に取り組む体制を整える。
・公民館、図書館などの充実 ・学習機会の提供
・社会教育関係団体の育成、支援
- ②市民のスポーツ・レクリエーション活動を活性化させる。
・各スポーツ施設、設備の充実 ・競技スポーツの振興
・総合型地域スポーツクラブの育成 ・スポーツ活動に関する指導者の育成
- ③文化芸術を通じて日々の暮らしにうおいを与える。
・文化芸術の振興

【施策コスト】(評価対象事業の合計)

		単位	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(計画額)		千円	215,178	258,046	187,860	192,279	186,779
財 源 内 訳	使用料・手数料	千円	18,123	18,245	16,991	17,281	17,281
	国・府支出金	千円	2,488	97,287	4,350	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	194,567	142,514	166,519	174,998	169,498
職員従事人数	人・年		21.18	37.32			
人件費	千円		96,951	133,792			
事業費総額	千円		312,129	391,838			

【施策目標の達成に貢献度の高い事業】 全 39 事業 単位:千円

事業名(細事業名)	決算額	うち一般財源	
		うち一般財源	うち人件費
施設管理運営費(園部公民館運営費)	16,601	9,166	3,500
講座開講事業(講座開設事業)	12,031	10,789	8,307
子ども読書の街づくり推進事業(子ども読書の街づくり推進事業)	13,905	9,344	11,378
国民文化祭推進事業(国民文化祭推進事業)	2,515	2,035	2,014
文化祭事業(文化祭事業)	5,496	5,496	4,624
顕彰費(顕彰費)	702	702	590

【前年度の評価】(要約)

【総合評価】

①目標の達成状況
講座開設事業では「つどう」「まなぶ」「むすぶ」場作りが実践できたが、講座運営において課題が残った(担当人員の不足)。図書館では書籍購入を計画的に行っていく必要がある。社会体育施設の指定管理で「利用者の視点」に立ったサービス向上と効率化がみられた。青少年関係では、マリンスポーツ体験なども出来た。顕彰事業では、特に小中学生の活躍が目立ち、日頃の成果があらわれた。文化祭事業では、自主運営につながる育成を図ることができた。

②目標値や施策の考え方の見直し

日吉ダムマラソンは単にマラソンというスポーツ大会の範疇に留まらない。団体育成事業では、市民の生活と直接結びついた事業評価が望ましい。

【改善の方向性】

①今後の方向性

生涯学習社会の実現のためには、市民の自発的な学習活動を進めていくことも必要。社会教育施設や社会体育施設は南丹市全体からみて適正配置に向けた見直しが必要である。

②各事業の対応

団体育成事業については、自主的な学習活動への支援だけでなく、団体の自主運営の支援や育成のための補助金であるほうが望ましい。体育施設の運営管理については今後も指定管理制度へ移行し「利用者側の視点」に立ったサービス向上と効率化を図る必要がある。日吉ダムマラソンについては、市民協働の取組みをより一層進めていく必要がある。

【評価を受けて取り組んだこと】

- ①講座開設事業では、単に公民館事業だけでなく市民がより参加の選択が広がるよう検討した(英会話教室は国際交流協会と連携した講座を開催)
- ②今後の社会教育施設のあり方について、担当者レベルでの検討の場を設けた
- ③団体育成では、運営補助から事業補助への見直しを行った
- ④社会体育施設については、日吉地域を指定管理とすべく公募を行ったが、全ての施設が対象ではなく、結果的に条件通りの公募とならなかったため、今年度は直営で運営していく。
- ⑤日吉ダムマラソンについては、市民ボランティアを増員する工夫を行った

【今年度の評価】

【総合評価】

①目標の達成状況
*生涯学習活動事業数と社会教育施設の利用者数は目標値をクリアし、文化サークル団体は現状維持となっているが、スポーツ・レクリエーション施設の利用者数は目標値を下まわった。

②目標値や施策の考え方の見直し

*文化サークル数などは、単に団体が増えれば活性化するというものでなく、現時点では合併後の交流によってようやく顔の見える活動となっており、趣を同じくするサークル等は統合するほうが活動がより良くなる場合もある

【改善の方向性】

①今後の方向性

- *市民の自発的な学習活動が展開できるよう方策をさぐりながら検討する
- *社会教育施設や社会体育施設の今後のあり方について方向性を示す
- *指定管理について、必ずしも公募でなければならないものではないので、今後施設の利活用目的に照らして検討が必要

②各事業の対応

- *各種委員の選出について、公募での登用も行き、より市民の意見を反映させる
- *公民館施設は2施設あり、本館と分館に分けて施設の管理運営できるよう検討する
- *図書室について、八木と美山の図書室の場所や運営形態について検討する